

※収量の安定、向上:目標480kg以上／10a

●稲ワラすき込みで地力増進 ●土壌診断を行い酸性矯正 ●部分浅耕－工程播種の実施

※実需者が求める品質の向上:Aランク麦づくり

●適期の穂揃い期追肥でタンパク質含有率向上 ●ちくしW2号は12%以上

※赤かび病を出さない

●適期防除の徹底 ●ちくしW2号は2回散布

※農薬の安全使用と隣接する作物への飛散防止の徹底

〔主な病害〕

赤かび病

アメリカフウロ

スズメノテッポウ

キンボウゲ類

コアカザ

ミチヤナギ

カズノコグサ

カラスムギ

4葉期

1.5葉期

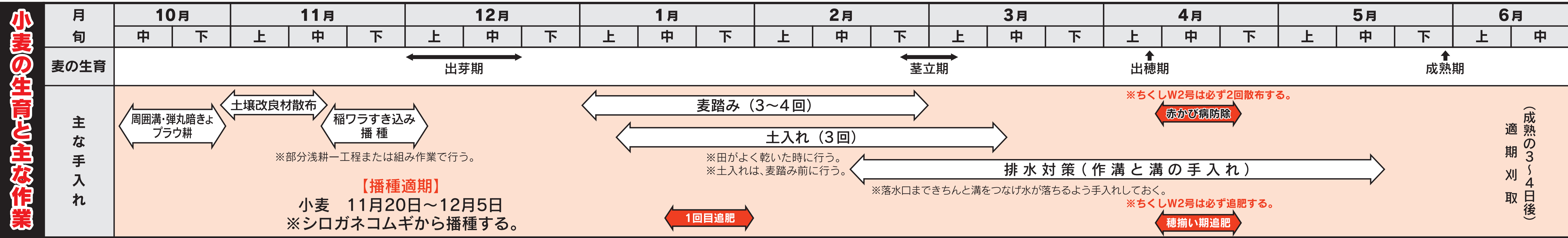
4葉期

4葉期

ヤエムグラ

カラスノエンドウ

ネズミムギ



1. 土づくり

土壌改良材散布			
時 期	土壌改良材	散布量kg/10a	備 考
播種前	生石灰	100	目標 pH 6.0～6.5
	苦土石灰	200	
	オイスターミネラル	100～200	

●土壌診断を行いましょう。酸性矯正には生石灰を散布します。

2. 種子の準備と播種

異種混入が発生すると販売が困難になるので
毎年必ず種子更新を行いましょう!!

(1)種子消毒		
対象病害虫	薬 剤 名	処理方法および処理時間
ヤギシロトビムシ	(劇)アドマイヤー水和剤	乾燥種子10kgあたり15gを種子粉衣する。 (0.15%)
	クルーザー FS30	乾燥種子10kgあたり60mlを種子塗抹する。
斑葉病、裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子10kgあたり50gを種子粉衣する。 (0.5%)

※クルーザーFS30は、前年度ヤギシロトビムシが多発したほ場に使用する。

(2)播種時期と播種量(ドリルまき)		
品 種	播 種 適 期	播種量(10a当たり)
小 麦	11月20日～12月5日	6.0kg～7.0kg (4升3合～5升)

- 大豆あとの播種量は上表基準量より10a当たり1kg減量する。
- 深まきにならないように、2～3cmくらいの覆土がよい。
- バラ播は2割増とする。

※作業日誌・生産工程管理チェックシートは別に配布しますので、必ず記帳をお願い致します。

3. 踏圧(麦踏み)

- 乾燥が続いて、土壌が乾燥している時の午後、茎葉水分含量の少ない時に実施する。
- 土がしまり麦の生育に悪いので、土壌が湿っている時は行わない。

4. 土入れ

- 1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育に伴って土入れの量を増す。
- 土入れは麦踏み前に行う。晴天続きのよく乾燥した時に行う。
- 土入れは倒伏防止・雑草防除に効果があるので必ず実施する。

5. 施 肥

品 種 名	基 肥（10a当たり）	追 肥（10a当たり）	
		1回目	穂揃い期
シロガネコムギ （小麦）	ちくごのめぐみ 444	麦追肥一発2号	—
	40kg (大豆あとは20kg)	40kg	
ちくしW2号 （小麦）	ちくごのめぐみ 444	硬質小麦専用追肥 (3004)	尿素 4kg(水100ℓ)×2回 ※葉面散布
	40kg (大豆あとは20kg)	30kg	

- 大豆あとの場合、基肥量半分にする。
- ちくしW2号については穂揃い期追肥(出穂後7～10日)を必ず行うこと。(2回目は、1回目の穂揃い期追肥の7～10日後に行う)

6. 赤かび病防除

品 種 名	散 布 時 期	使用薬剤及び10a散布量	使用回数
シロガネコムギ (小麦)	出穂後7～10日(開花期) ※収穫14日前まで	トップジンM粉剤DL 4kg 又は トップジンM水和剤100g/水100ℓ (希釈倍率1000倍)	1回
ちくしW2号 (小麦)	1回目：出穂後7～10日(開花期) 2回目：1回目防除の1週間後 ※収穫14日前まで		2回

●シロガネコムギは、開花期に雨が多い場合、上記散布時期の7～10日後に2回目の防除を行う。

7. 雑 草 防 除

区分	薬 剤 名	処理時期	10a当たり 使用量	適 用 雑 草					使用上の留意事項
				イネ 雑草	アメリカ フウロ	ミチヤ ナギ	キン ボウゲ	ヤエム グラ	
	ラウンドアップマックスロード	播種前～ 出芽前まで	500ml	●	●	●	●	●	周囲への飛散防止を徹底する。 ※ラウンドアップマックスロードは、水50ℓ (少量散布の場合は25～50ℓ)に希釈する。
	バ ス タ 液 剤								
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)	60～80ml	●	●	●	●	●	乳剤、粒剤ともに大雨の前後には使用しない。
	リベレーターG	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)	4～5kg	●	●	●	●	●	播種後、できるだけ早く処理する。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	4～5kg	スズメノ テッポウ ※	●	●	●	▲	ハーモニー細粒剤Fを使った場合、ハーモニーDFは使えません。 ミチヤナギ、ノミノフスマ、キンボウゲ類、アメリカフウロに効果高い。
	ハーモニーDF	播種後～ 節間伸長前	5～10g	スズメノ テッポウ ※	●	●	●	●	スズメノテッポウ、ヤエムグラ、カズノコグサ、 ミチヤナギは10g/10aを目安。
		節間伸長開始～穂ばらみ期 (但し、収穫45日前まで)	3～10g	—	●	●	●	●	
	バサグラン液剤	小麦の生育期 (播種後3～8葉期までに散布する) 但し、収穫45日前まで	100～200ml	—	●	▲	●	●	キンボウゲ類に効果高い。
	アクチノールB乳剤 5年産分は生産中止	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100～200ml	—	▲	▲	▲	●	カラスノエンドウに効果高い。 ミチヤナギについては早め(本葉3葉まで)に散布する。
	エコパートフロアブル	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期) 但し、収穫45日前まで	50～100ml	—	▲	▲	▲	●	タデ類とヤエムグラに効果が高い。カラスノエンドウへの効果は低い。 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じるが、一過性でその後の生育に 影響しない。

- 除草剤の液剤を使用する際は、上記の10a当たりの薬量を水100ℓに希釈して使用して下さい。
- ※ハーモニー剤は抵抗性のあるスズメノテッポウには効果がありません。

コアカザ対策

- コアカザの出芽が増い、小麦が繁茂する前の2月下旬頃にハーモニーDFを散布する。
- 土入れにより新たにコアカザが出芽するので、ハーモニーDF散布後の土入れは控える。

カラスムギ・ネズミムギ対策

- カラスムギ対策のために夏場に湛水または稲作をする。
- ネズミムギ発生抑制のため、前年多発した圃場では発生前の1月下旬～2月上旬頃の土入れ後に土壌処理剤として、トレファノサイド乳剤(200～300ml/希釈水量100ℓ/10a;収穫45日前まで)、またはトレファノサイド粒剤2.5(4～5kg/10a;収穫45日前まで)を散布する。
散布後は、後発の出芽を抑えるために土入れはしない。単年度では完全に抑えられないので複数年処理を行う必要がある。併せて、雑草の種子が成熟する前に手取り除草を行う。

8. 品種特性表

品種名	出穂期	成熟期	穂数／㎡	耐倒伏性	穂発芽性	収量kg／10a	赤かび病耐病性
シロガネコムギ	4月8日	5月29日	522	極強	易	480	中
ちくしW2号	4月8日	5月29日	482	強	難	497	やや弱

※引用元:出穂期、成熟期(11/20～30に播種した現地のデータ)、それ以外(福岡県農林業総合試験場データ)